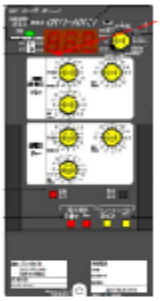
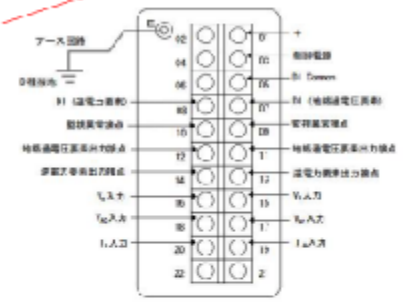
# 逆電力継電器 RPR 試験方法 （単相）

試験電流がmA単位と小さいので注意、試験器によっては外部デジタル電流計を使用する。

三菱電機　CRV1-A01S1　注意（地絡過電圧要素をロックにする）






配線養生　電源①②　電流⑲⑳　電圧⑰⑱　接点⑬⑭

## 1.最小動作試験

1 試験器の被見電源、電流、電圧、接点ケーブルを極性に合わせて接続

2 電圧出力は、定格電圧 110 V に調整

3 位相は進み30°（最高感度角）に調整

4 最小動作値を確認

| RPR 整定(%) | 0.2 | 0.4 | 0.6 | 0.8 | 1 | 1.5 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 電流(A) | 0.01 | 0.02 | 0.03 | 0.04 | 0.05 | 0.075 | 0.1 | 0.15 | 0.2 | 0.25 |

| RPR 整定(%) | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|
| 電流(A) | 0.3 | 0.35 | 0.4 | 0.45 | 0.5 |

※試験時は電流の位相は最高感度位相角方向（電圧に対し進み 30°）にて実施ください。
電圧は 110V 固定にて実施ください

## 2.位相特性試験

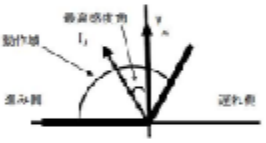
1 電圧出力は、定格電圧 110 V に調整

2 電流は、整定値の200%

3 位相動作値を確認

4 進み Lead 90° ±5°　遅れ Lag 30° ±5°

5 最高感度角
進み30° ±5°




## 3.動作時間特性試験

1 動作電力整定値を0.2%にする

2 電圧出力は、定格電圧 110 V に調整

3 試験電流は、整定値の200%

4 位相は進み30°（最高感度角）に調整

5 試験電流を0%から200%に急変させ
動作時間を測定する。　整定で設定し試験